

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

1 事業の趣旨・目的

兵庫県には約 10 万 3000 人の外国人が居住している。そのうちの 4 割が新渡来者であり、日本で生活するために彼らの多くが、居住地、勤務地域で日本語学習を望んでいる。その要望に応えるために、県内には約 70 箇所の日本語教室がある。どの教室も恒常的な学習支援者不足である。また、彼らに連れてこられた子どもたちも増加の一途をたどっている。子どもたちへの支援はどの教室も経験が浅く、試行錯誤で支援に当たっているのが現状である。

兵庫日本語ボランティアネットワークは県下の行政機関(国際関係課、教育委員会)国際交流協会、ひょうご日本語ネットと密接な連携関係を持っているので、人的ネットワークを生かすことができる。また、兵庫日本語ボランティアネットワークは日本語学習者のニーズに応えるための日本語学習支援者養成講座を開催してきた実績がある。この利点を生かし、「退職教員を対象とした日本語指導者養成講座」を行うことができる。

兵庫県では小、中、高等学校の教員が約 4 万人在職し、毎年約 1000～1200 人が退職する。退職者の多くが、退職後、地域社会で活動を望んでいるが、成人を対象とした社会教育の経験がある人はほとんどいない。ましてや日本語教育のノー・ハウを身につけた人はほとんどいない。

ここでは、彼らの教育経験を生かしながら、地域の「外国人」の日本語学習支援活動に必要な態度、知識、スキルを新たに身につけ、地域の日本語学習支援教室に通う成人や学校に在籍する日本語学習支援を必要とする児童生徒の支援者として活動できるように以下を目的とする。

- ① 講座修了者(退職教員)が兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動する機会とする。
- ② 講座修了者(退職教員)が自分の経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、教科学習支援に参加できるようにする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

ひょうご日本語ネットに拡大メンバーが参加し本事業の企画、提言により本事業を推進した。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2009.7.30 15:00 ~ 17:00	兵庫県国 際交流協 会会議室	武中初枝 松田高明 伊井直明 水野マリ子 村山 勇 青木直子 酒井滋子 岸本美紀 奥田純子 清田薫 田中香織 長嶋昭親 湯口恵	本事業の講座内容・日程 広報などの提案	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑 承認
2009.9.14 15:00 ~ 17:00	兵庫県国 際交流協 会会議室	同上	本事業の最終案について 広報の確認 後援団体の確認	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑 承認
2009.12.17 15:00 ~ 17:00	兵庫県国 際交流協 会会議室	同上	講座参加者の確認 講座中間報告	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑
2010.3.18 15:00 ~ 17:00	兵庫県国 際交流協 会会議室	同上 (松田・奥田 両氏欠席)	本事業報告案について	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑 承認

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名:日本語教育指導者養成講座

(2)養成講座の目標:

①修了後、兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動できるようにする。

②修了後、自分の教職経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、教科学習支援に

参加できるようにする。

(2) 受講者の総数 25人/回

(3) 開催時間数(回数)3時間 (13回)

(4) 参加対象者の要件:教職経験者で退職者および予定者

(5) 受講者の募集方法

①兵庫日本語ボランティアネットワーク加盟のグループ会員へ郵送(メール便)案内

②神戸新聞により案内

③兵庫県教育委員会より小中高校へ電子メールで案内

* 募集チラシは巻末添付

(7) 研修会場:兵庫県立のじぎく会館(主会場)・兵庫県立ひょうご女性交流館・神戸市青少年会館

(8) 使用した教材・リソース:各講師の手作りレジュメ

講座内容

(1)

実施日	研修内容	講師	受講者数
11月7日	1. オリエンテーション 2. ～自己紹介(異文化ワークショップ)～	兵庫日本語ボランティアネットワーク 代表 長嶋昭親 大阪市高校教員 山田久美子	24人
11月14日	生活者としての「外国人」の状況と諸問題 1. 概論 2. インドシナ難民とその家族について 3. 日系労働者とその子どもたちについて 4. 中国帰国者とその家族について	RINK相談員木村雄二 NGO ベトナム in 神戸相談員 ブハビュトニヤトワイム (財)篠山国際理解センター 副代表矢持ヒロカ美智子 中国帰国者日本語学習支援 の会コーディネーター根津 京子	19人
11月21日 13:30～ 16:30	生活者としての「外国人」への日本語学習支援 について 1. 学校教育との違い 2. 第二言語教育の理念 と理論。(国語教育、英語 教育と日本語教育の違い)	日本語教師 永安龍三郎 大阪大学大学院文学部 教授 青木直子	18人
11月28日 13:30～ 16:30	「外国」から来た子ども 支援の現状と課題－1 1. 「外国」から来た子ども も支援の課題について 2. 日本語学習支援活動 について	広島県小学校日本語教師 二口とみゑ 兵庫県教育委員会サポーター 藤戸直美	23人
12月5日 13:30～ 16:30	異文化体験学習	コミュニカ学院院長 奥田純子	25人

実施日	研修内容	講師	受講者数
12月12日 13:30～ 16:30	「外国」から来た子ども 支援の現状と課題－2 1. 概論 2. 実践報告-1 3. 実践報告-2 4. 実践報告-3	神戸市小学校教員 村山勇 神戸定住外国人支援センタ ー 相談員 矢根寛子 灘わくわく会代表中塚和代 こうべ子どもにこにこ会 事務局長田中香織	21人
12月19日 13:30～ 16:30	「外国」から来た子ども 支援の現状と課題－3 1. 愛知教育大の実践 -1 2. 愛知教育大の実践 -2	愛知教育大研究補佐員 川本遥 愛知教育大研究補佐員 宮崎宏美	21人
12月26日 13:30～ 16:30	日本語支援法－1 自己学習、自己学習支援 について(第二言語教育 の理念と理論)	大阪大学大学院文学部 教授 青木直子	22人
1月9日 13:30～ 16:30	日本語支援法－2 自己学習、自己学習支援 について(ポートフォリ オ作成について)	北九州市大学 準教授 小林浩明	21人
1月16日 13:30～ 16:30	日本語支援法－3 学習者のニーズに応え るための戦略－1	港島日本語教室コーディネ ーター 尾形文	23人
1月23日	日本語支援法－4 学習者のニーズに応え るための戦略－2	神戸定住外国人支援センタ ー支援者 高橋博子 日本語教師 後藤ひろ子 兵庫県教育委員会サポータ ー ポロルサイハン	23人
1月30日 13:30～ 16:30	「外国」から来た子ども 支援の状況と課題－4 他地域での先見の実践 について	神奈川県中学校教員 柿本隆夫 すたんどばいみー支援者 宮脇英理 西岡歩 チャンワリット	19人

実施日	研修内容	講師	受講者数
2月5日	<p>これからの行動計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校での支援活動について 2. 県内の地域日本語教室紹介 	<p>兵庫県教育委員会 主任指導主事 山田耕治</p> <p>兵庫日本語ボランティアネットワーク代表 長嶋昭親</p>	23人

講座の評価

I 受講生に対するアンケート

平成21年度文化庁生活者としての「外国」人に対する日本語教育事業「日本語教育指導者養成講座」

アンケート結果（実施日 2010年2月6日）

修了者：24名 回答者 21名（3名欠席）

1. この講座をどこで知りましたか。
 - a. 学校で 12
 - b. 兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で 2
 - c. 知人から 1
 - d. 地域の日本語教室で 0
 - e. 神戸新聞で 5
 - f. その他（インターネット）で 1
2. 講座について
 - (1) 内容について
 - a. よかった 17
 - b. まあまあよかった 4
 - c. ふつう 0
 - d. あまりよくなかった 0
 - e. 全然よくなかった 0
 - 無記入 0

【理由・意見】

- ・ 初めて知ったことばかりで大変勉強になった。こんなに大きな重要な問題を知らずにいたことは驚きでした。
- ・ 何も知らない私にとって毎回非常に充実しておりました。
- ・ ①日本で外国人のおかれている諸問題について多くの事を学べた。
②日本語を教えるという経験が全くないのでその教授法などの紹介があったのでとてもよかった。
- ・ 現場の生きた言葉や経験が目からウロコでした。知らない事をたくさん教えていただき感謝しております。
- ・ どの講座も充実していて満足しました。
- ・ 専門的な知見を知ることができた。自分か関わっている当事者とは全くタイプの異なる当事者の（先端的な）話が聞けた。（すんどばいみーのこと）
- ・ 計画的にカリキュラムを作っていたいていました。現場で指導していらっしゃる方の取り組みが大変勉強になりました（概論的なものは重なりがありました）
- ・ 知らないことが、たくさん学ぶことができた。
- ・ 今までにこの種の事案に出会ったことが少なく受講して少しショックを受けた（現状の厳しさに）。
- ・ 「多文化共生教育」の大切さを再認識しました。
- ・ 受講料無料のところよかった。
- ・ 定住外国人の気持ちが理解できるようになった。

- ・ 日本語指導に関わる問題について広く知ることができた。
- ・ もう少し時間が必要です。活動内容に触れる時間が少なかったです。
- ・ 講師の先生方のレベルが高くて専門的なことも多く学ぶことができた。
- ・ 情報量が多くて内容も豊かで良かったです。
- ・ 13回様々な支援から様々な分野において学習できた。

(2) 期間 (3時間×13回) について

- a. 短かった 6 b. ちょうどよかった 11 c. ふつう 3 d. 長すぎる 1

【理由・意見】

- ・ 遠方からの参加で電車を乗り継いでとなると丸一日仕事となり旅費もかかる（駅で駐車料を入れると1回3000円前後）ので正直長く感じました。しかし講座内容が大変濃密なので1回の講座内

容をあまりふやしても消化不良になると思うので”倍”は無理だと思います。

- ・ 仕事を持っているのでちょうどよかったがもう少し長くても問題はない。
- ・ 学習すべき内容が多くあることに気づかされました。そういうことから言えば短かったかも分かりません。
- ・ **もう少しあってもよかったです。**
- ・ 半年間くらい必要⇔パート1、パート2に分けて受講できるようにしてほしい。
- ・ もっと長ければ再任用として働いている身では欠席があったかも。
- ・ 教材を使用して、具体的にどのように指導するか演習する機会があればもっとよかったです。
- ・ 続けて13回は少ししんどかったです。1回に付きもう少し長くして回数を少なくしてほしい。
- ・ 終われば、短かったが継続して学習していくことが大切だと感じている。ただ遠距離だったので辛いときがあった。
- ・ 意見を言わせていただけるのであれば、3時間であっても朝から出てきますので、時には3時間、3時間にしてもらほうが良かったときもありました（休まなくてもすむ）。
- ・ 少し長いように思いました。予定や行事があり、出席できないこともあり、残念でした。
- ・ 日数的にきついなと思う。
- ・ 3回仕事が忙しく抜けてしまったのが残念です。
- ・ 回数は良かったが時間的に年末の2回がきつかった。
- ・ 活動内容に触れる時間が少なかったためです。
- ・ もっと集中的にすると消化不良になりやすいのではないかと思います。分散式でいいと思います。

- ・ 入口の第一歩としてはちょうど良い。あとは受講生それぞれがどのように選び行動していくか。

(3) 講師・スタッフについて

- a. よかった 18 b. まあまあよかった 3 c. ふつう 0
d. あまりよくなかった 10 e. 全然よくなかった 0

【理由・意見】

- ・ どの講師のお話もとても勉強になりました。スタッフの方々も親切に対応していただき感謝しています。
- ・ 無料で各方面の専門家の話が聞けました。
- ・ 毎日の講座が充実してとても楽しかった。
- ・ 心をこめて仕事に取り組まれている様子に心を打たれました。とても良い先生方でした。様々な内容に富まれてバラエティに満ちています。
- ・ いろんな分野のお話が聞け、充実していました。遠方からわざわざ来ていただき、ありがたいと思います。
- ・ 講師の皆さんの熱意に励まされた。
- ・ ほとんどの人の話はとても役立ったが、日本語教室の概要を少しだけ話された人が 1,2 人いた。
- ・ 上述しましたが現場で指導されている方々のときは充実していました。愛知教育大の学生さんの取り組みは勉強になり頭が下がります。
- ・ 全く今までの知らない事象について教えていただき感謝しています。幅広い講師陣でよかった。(楽しい研修でした。)
- ・ それぞれ実践されている人たちでしたのでとても分かりやすかったです。
- ・ 幅広い人材でよかった。
- ・ 非常に良く考えて、人選されていて本当に勉強になりました。
- ・ 一生懸命指導してくださいました。ありがとうございます。少ない時間で大変だったと考えます。
- ・ いろいろな分野で活躍している先生のお話を聞いてよかったです。
- ・ 理論編、実践編、大人編、子ども編、様々にお話を頂いた。

3. 講座を受けて

(1) 日本語学習を必要とする「外国」人の事情が

- a. よくわかった 12 b. まあまあわかった 9 c. ふつう 0
d. あまりわからなかった 0 e. 全然わからなかった 0

【理由・意見】

- ・ 理解は浅いと思いますが・・・。

- ・ 特に生活言語と学習言語についてどうしても生徒の流暢な普段の日本語に惑わされてつい高度な学習言語を使ってしまいがちだったこともあり、反省させられました。
- ・ とても大変だというのは分かりました。それぞれの家庭環境もあるので事情は様々ということも分かります。必要だということは痛感しています。
- ・ まだまだいろいろな事実を知っていききたい。
- ・ 生活の実態など話してくださいましたモンゴル語の授業（短時間）を受けて、大変さを実感することができました。
- ・ 奥が深く、浅くしか学べなかったが、良かったです。
- ・ よく分かったが現状は厳しい。少しでもお役に立ちたい。
- ・ 生の声が聞けてよかったです。教育を受ける機会と場が少なかったことが残念です。これは。国の施策として考えていく必要があります。
- ・ 「外国」人の事情について深く広く分かるようになりました。
- ・ まだまだ、様々な課題があると思う。これからさらに学習していきたい。
- ・

(2) 日本語学習支援法が

- a. よくわかった 5 b. まあまあわかった 10 c. ふつう 2
d. あまりわからなかった 3 e. 全然分からなかった 0 記載なし 1

【理由・意見】

- ・ 講座の内容はそれなりに理解できましたがほんの入り口だと感じました。この講座では詳しい支援法を学ぶのは無理だと思うので支援法に絞った講座も必要ではないかと思えます。
- ・ 現状はよく分かりました。あとは実践していくしかないのでは。
- ・ 日本語学習支援方にはもう少し時間があつたほうがよいと思った。
- ・ 大きな枠組みは分かったのですが、具体的なことについては難しいと思えます。これからの自分の課題と思えます。
- ・ 具体的な支援法をもう少し欲しかった。実際の教室等の授業研修があつてもよかったです。
- ・ 技術的なことは今やっているだけに悩んでいるままです。
- ・ 講義の次に具体的な演習をしないと身につけません。
- ・ 現実問題として、いざ明日からとなるとまだまだ不十分だと思う。
- ・ さらに学習したい（個人的にも）。
- ・ 私の理解力が乏しいためです。
- ・ 文法のことなど詳しく知りたいです。
- ・ まだまだ勉強しないと本当に役立つ（満足のいく）活動ができないなと思った。
- ・ この講座では具体的な内容までは無理がある。
- ・ いろいろ努力しておられることが分かりました。
- ・ 日本の子ども達の教える義務教育で使用する教科書を使用することはできないのでし

- ようか。学年のレベルが分かります（教えるものも教えられるものも）。
- ・ 理論的にはいろいろとよく分かりました。実践に結び付けて深化させたいです。
 - ・ 具体的にはやはり今後、各自が学習していく必要がある。

(3) 「外国」から来た児童生徒の事情が

- a. よくわかった 9 b. まあまあわかった 10 c. ふつう 3
d. あまりわからなかった 1 e. 全然分からなかった 0

【理由・意見】

- ・ (2)と同様実践的な支援法講座も必要ではないかと思えます。実際に支援に携わる中で学習を深めるものだと思いますが。
- ・ 言葉以外に精神的な面での理解、サポートは必要だということもよく分かった。
- ・ 上記に書いたようにそれぞれ異なるので支援法についてはまだまだわからないことばかりです。多分目の前に来られて相談しつつと思えます。支援法については勉強しなくてはいけないということが分かりました。
- ・ 「すたんどばいみー基金例会」での外国人児童生徒の声が一番考えさせられた。
- ・ ・方法や技術よりも哲学が学びたい
- ・ 子どもを支援するとき校内、時間内では制約がありすぎてどうやれば硬貨があるのかわからない。
- ・ 愛知教育大の若い学生の取り組みが大変参考になりました。
- ・ 日本語だけしか話せないのにできるかどうか心配でしたが、なんとかなるかなと思えました。
- ・ はたして自分できるかどうか。今は以前と違った難しさを感じている。
- ・ もっと根本的(政治的)な支援がないと草の根活動ではできないことがたくさんあるから。
- ・ 国・企業・大学・個人の支援が必要です。
- ・ 国の施策が必要です。温かい支援をお願いします。
- ・ レベルの分かる教科書が必要です。(国がきちんと作らないといけません(日本語と他国語で作成))
- ・ その児童生徒のバックグラウンドによって支援法も色々だろうと思う。
- ・ 「外国」から来た児童生徒たち一人一人の実際とニーズに合わせて支援法を工夫したいと思えます。
- ・ 具体的な実践スキルはこれから自分自身が学んで行きことだと思う。ヒントアイデアは色々紹介していただいた。

3. これからのこと

- a. 学校や地域で日本語学習支援に関わっていきたい 15

b. 今は、関われないが、将来関わりたい	4
c. わからない	2
d. さらに研修を受けて考える	1
e. 関わりたくない	0

(複数回答 2人)

【これからのこと及び全体を通じてのご感想・ご意見】

- ・ 大変ためになる学習貴重な体験でした。どれだけのことができるかわかりませんが、手に合う事を少しでもできればと思います。長嶋先生の”経歴”にも心打たれました。ありがとうございました。
- ・ 学んだ事を活かし、機会を見つけてできる範囲で支援に関わっていきたいと思います。
- ・ 退職前でいろんな不安なことがあり退職してすぐ何かをする計画が立てられないので落ち着いてから考えたい。でも可能であれば日本語学習支援に関わりたい。
- ・ 泳げると思ってプールに飛び込んだら泳げなかったという気持ちが生まれています。なかなか大変なことと思うのですが・・・。
- ・ 特に大きな目的があったわけではなく参加しましたが13回お話を聞きながら、自分でも何か小さなことでもできるのではないかと思います、まだまだ意識は低いですが、勉強していきたいです。
- ・ 「すたんどばいみー基金の例会」での奨学生の若い方の体験発表がとてもよかった。
- ・ 多文化共生サポーター（兵庫県教育委員会）制度を初めて知った。（「週3回、3年未満」という制限が近い将来撤廃されて希望者全員になりますように）
- ・ 日本で暮らし、学ぶ外国人が日本語を学びたいと思ったとき、学ぶことができる仕組み＝公民館や学校や公共施設の便利のいい所で行政とNPOが連携して教室を開設、運営することが是非必要だと思う。この講座を受けてその必要性が実感できた。教育行政と学校とNPOボランティア）が連携して少しずつ実現させていきたい。それが、多文化共生の国際都市を作り上げていくことだと思う。それが誰もが居心地の良い街づくり、平和な社会づくりにつながると思う。是非、今後も養成講座を開設して欲しい。
- ・ 受講生の方々の熱意に打たれ、真剣に取り組むことができた。
- ・ 緊張感と考える喜びを味わうことができてとても良かった。
- ・ 外国人が日本で生きていくためには日本語の読み書きができないと大きな障害になります。（日本人が外国で生きていくときも同じことが言えますが）ぜひともその障害を取り除いていく施策が必要だと思いました。多文化共生とは何かを深く考えさせられとても有益でした。
- ・ 今までに加小日本語教室、TIA（高砂市国際交流協会）に本語教室、にこにこ日本語教室（東加古川）で支援してきました。TIAは教室を書き？あまりにも厳しすぎ、当事者の思いを汲み取って対応することができないと思いました。加小はその点は理想的だと思います。TIAでもっと私のskillを高めたいと思います。教案（みんなの日本語）

えお書き添削してもらいたかった。モデル授業し批判し合う場があれば……。学校でやるみたい。

- ・ 再任用（フルタイム）中、学校内の仕事だけでなく、市内全体の研究会の推進をするため、1,2年は多忙ですが、その後、微力でも協力させていただきたいと思っています。兵庫の多文化共生センター制度（通訳）だけでなく学校に支援に入る制度があれば私たちの力が一番生きると思うにですが……。
- ・ もう少し研修して指針を持って支援に関われるようになりたい。ずっと努力したい。
- ・ 自分の今までの意識の低さを反省している。
- ・ まだ自信はない。
- ・ 今は全く自信がありません。でも外国語を勉強したいなあと思うようになりましたから、大きな収穫でした。ありがとうございました。
- ・ 日本語学習支援に関わりたいですが、ボランティアだけになると自分自身の生活が苦しくなるので難しいところです。日本語を必要としている外国人の方は多いですが、登録している日本人のボランティアの方が多く、うまく活動まではいたっていません。そのあたりの整備とボランティアだけに頼る考えを改めて欲しいです。
- ・ 今、身近に将来的な支援も含めた支援を必要としている生徒がいます。彼女たちに本当に必要な支援がなされてたなら、先日の「すたんどばいみー」のような活動が彼女たちの手によってなされると思います。
- ・ 将来外国で日本語指導に関わりたい。
- ・ これからも外国の方に「日本に来てよかった」と思えるよう暖かい支援を続けていきます。
- ・ とてもよい講座でした。これからもご指導をお願いいたします。
- ・ これからのこと：1年少し教えた中国人生徒が4月から3年生になります。進路のことが気になりのでできることなら、あと1年彼女に日本語を教えていきたい。そう思って子ども多文化共生センターのサポーターに応募しました。2月19日ごろ選考試験があります。復習をしないといけません。
- ・ 感想：毎回充実した講座でした。
- ・ 労働形態の多様化と国際結婚の増加等に伴う来日する児童生徒が段々と増えてきています。児童生徒一人一人のニーズに合わせて彼女たちが伸び伸びと勉強生活ができるように日本の子どもと同じように夢を描いて夢を実現できるような「力」をつけてあげたいです。
- ・ 今後の私：
 1. まず様々な情報を入手すること……兵庫日本語ボランティアネットワークの会員になりました。
 2. 自分自身がスキルを身につけること。→神戸YWCA2010年度に本語教師養成講座を受講予定、基礎から学んでいきたい。

3. 実践→できることから活動していきたい。

感想：見えていなかった実態が少し学べた機会だった。この講座は毎回楽しみで充実していた。「今後の私」が見えてきたのはこの講座を受講したおかげである。来年度も是非開講してほしい。友人にも薦めたいと思う。この講座は入門編として多様多彩な講座でよかった。発展編として実践に焦点を当てた第二段があってもよいと思う。一度にすべては無理だと思う。

II 実施主体からの研修内容結果評価

- ① 今回の受講生の中には、勤務校や地域で外国人児童生徒に出会い、問題意識を持ったひとが1/3近くいて、ワークショップなどがとても盛り上がり、活発な活動ができた。
- ② 「外国人」の日本における現状を当事者（ペロニカさん、ナムさんなど）から直接体験を通じた問題提起をしてもらったので、自分の身の回りの『外国』人の現状が認識できたとと思う。
- ③ 子ども支援の当事者団体「すたんどばいみー」の若い支援者達は自分が日本語の学校生活を送った経験から、学校における外国人児童生徒をとりまく諸問題（彼らを生きづらくさせるもの）が明確になり、彼らが自立していくための方策を身をもって知らせてくれた。
- ④ 「外国」人への日本語学習支援の根幹は、「学習者自らが学ぶ」ためにどういいお手伝いをすればよいかである。本講座で「ポートフォリオ」を活用した日本語学習法はまさしく、それに応えるものである。少し難解ではあるが、受講生の多くがその意義を知ることができた。
- ⑤ 様々なシラバス応じたカリキュラムの組み立て方や、具体的な支援法については若干時間不足だったと思う。

III 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ① 修了生に退職教師の養成講座修了生の会を作りメーリングリストで近況報告などを行い、更なる研鑽ができるよう情報提供する。
- ② 兵庫県内では「ひょうご日本語ネット」により県内の日本語関係者、行政、教育委員会関係者が月一度、集まり地域日本語学習支援や子ども支援についての方策について話し合いを持っている。今後その活動をより深化するにすることで支援システムを構築する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

平成21年度ひょうごボランティア基金行政・NPO協働事業助成（NPO提案型 第2年次）事業「兵庫県内の企業等で働く外国人労働者およびその家族への日本語学習支援システムの構築」と連携、モデル日本語教室設置運営へ本講座修了生を活用する。

② 研修後の人材活用

- ア. 上記事業と連携し、モデル日本語教室の支援者として本講座修了生を活用する。
- イ. 兵庫県内の地域日本語教室や子ども支援教室へ紹介し、支援者として活用する
- ③ 兵庫県子ども多文化共生センターの支援ボランティアとして登録をし学校などで

(12) 今後の課題

- ① 退職教師の持つ様々なノウハウを活かして、地域の外国人への支援活動に参加できるような体系的なシステムを構築することが課題である。
- ② 特に、外国から来た子どもたちが、自立していくような支援活動を構築していく必要があるのと、支援グループの情報交換のためのネットワーク作りが急務である。